

市町村における発掘調査の概要
令和元年度（2019年度）

北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課

目次

はじめに.....	3
令和元年度（2019年度）市町村が主体となる発掘調査一覧	4
令和元年度（2019年度）（公財）北海道埋蔵文化財センターによる発掘調査一覧	5
令和元年度（2019年度）大学等による発掘調査一覧	5
市町村における発掘調査成果（令和元年度）	6
石狩管内	
札幌市 H508遺跡	7
札幌市 K556遺跡	8
江別市 高砂遺跡	9
千歳市 東丘7遺跡	10
渡島管内	
函館市 史跡 垣ノ島遺跡	11
函館市 大船G遺跡	12
函館市 大船I遺跡	13
函館市 電電公社合宿舎遺跡	14
函館市 白尻B遺跡	15
森町 鳥崎遺跡	16
森町 鷺ノ木2台場跡	17
森町 森棧橋跡	18
檜山管内	
上ノ国町 史跡 上之国館跡のうち洲崎館跡	19
上ノ国町 史跡 上之国館跡のうち花沢館跡	20
後志管内	
余市町 八幡山遺跡	21
宗谷管内	
枝幸町 目梨泊遺跡	22
枝幸町 東歌登遺跡	23
利尻富士町 沼浦海水浴場遺跡	24
オホーツク管内	
湧別町 シブノツナイ竪穴住居群	25
美幌町 豊幌7遺跡	26
胆振管内	
苫小牧市 静川37・48・49遺跡	27
伊達市 若生2遺跡	28
伊達市 有珠モシリ遺跡	28
伊達市 カムイタプコプ下遺跡	29
厚真町 幌内8遺跡	30
日高管内	
様似町 冬島遺跡	31
根室管内	
中標津町 標津川9遺跡	32
標津町 ポー川河岸3遺跡	33
羅臼町 モイレウシ川南岸遺跡	34

はじめに

令和元年度、北海道内では49件の発掘調査が行われました。

これらを調査の実施主体者別にみると、市町村教育委員会が31件で、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが4件、大学等が14件となります。

発掘調査には、

- (1)遺跡内に道路や建物等をつくる工事の前に行うもの(事前調査)
 - (2)遺跡の範囲や内容を明らかにするもの(詳細分布調査)
 - (3)史跡公園を建設するなどの目的で、史跡を調べるもの(史跡整備)
- などがあります。これらの調査によって、住居跡や墓などの遺構や土器・石器などの様々な遺物が発見され、地域の歴史や文化が明らかになっています。

ここでは、市町村の教育委員会が行った発掘調査の成果をすみやかに知っていただくために、調査の内容を簡単に紹介します。調査や遺跡について、より詳しく知りたい方は、各概要の末尾に記した問い合わせ先へおたずねください。

令和元年度(2019年度) 市町村が主体となる発掘調査一覧

番号	管内	市町村名	遺跡名	登録番号	調査面積(m ²)	調査目的	備考	
1	石狩	札幌市	H508遺跡	A-01-508	374	詳細分布		
2			K556遺跡	A-01-556	7,090	道路		
3		江別市	高砂遺跡	A-02-12	271	住宅		
4		千歳市	東丘7遺跡	A-03-301	550	農業関連、土砂採取		
5	渡島	函館市	電電公社合宿舎遺跡	B-01-295	470	道路		
6			大船I遺跡	B-01-324	4,881	道路		
7			大船G遺跡	B-01-302	3,854	道路		
8			史跡垣ノ島遺跡	B-01-258	80	史跡整備	法第125条	
9			臼尻B遺跡	B-01-241	4,219	道路		
10		森町	鳥崎遺跡	B-14-17	32	詳細分布		
11			鷲ノ木2台場跡	B-14-26	135	詳細分布		
12			森棧橋遺跡	B-14-27	20	詳細分布		
13		檜山	上ノ国町	花沢館跡	C-02-70	220	遺構内容確認	法第125条
14				洲崎館跡	C-02-25	180	遺構内容確認	法第125条
15		後志	余市町	八幡山遺跡	D-19-30	1,800	道路	
16		宗谷	枝幸町	目梨泊遺跡	H-05-42	14	学術研究	
17	東歌登遺跡			H-05-72	6	学術研究		
18	利尻富士町		沼浦海水浴場遺跡	H-10-16	9	学術研究		
19	オホーツク	美幌町	豊幌7遺跡	I-06-136	83	農業関連		
20		湧別町	シブノツナイ竪穴住居群	I-21-35	7	詳細分布		
21	胆振	苫小牧市	静川37遺跡	J-02-164	18	開発区域詳細調査		
22			静川48遺跡	J-02-298	18	開発区域詳細調査		
23			静川49遺跡	J-02-299	27	開発区域詳細調査		
24		伊達市	有珠モシリ遺跡	J-04-61	10	学術研究		
25			カムイタプコプ下遺跡	J-04-89	30	学術研究		
26			若生2遺跡	J-04-45	337	水道		
27		厚真町	幌内8遺跡	J-13-136	528	農業関連		
28	日高	様似町	冬島遺跡	K-08-11	38	詳細分布		
29	根室	中標津町	標津川9遺跡	N-03-56	40	詳細分布		
30		標津町	ポー川河岸3遺跡	N-04-184	8.5	詳細分布		
31		羅臼町	モイレウシ川南岸遺跡	N-05-71	5	詳細分布		

調査面積合計 25,355㎡

令和元年度(2019年度)(公財)北海道埋蔵文化財センターによる発掘調査一覧

番号	管内	市町村名	遺跡名	登録番号	調査面積(m ²)	調査理由
1	渡島	木古内町	幸連5遺跡	B-05-62	1622	道路
2	空知	長沼町	16区F遺跡	E-17-32	1000	道路
3	オホーツク	湧別町	川西2遺跡	I-21-56	50	詳細分布
4	胆振	苫小牧市	高丘8遺跡	J-02-286	1600	道路

調査面積合計 4,272m²

※詳しくは、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターへお問い合わせください。(http://www.domaibun.or.jp/)

令和元年度(2019年度) 大学等による発掘調査一覧

番号	管内	市町村名	遺跡名	調査面積(m ²)	調査理由	調査者
1	石狩	札幌市	K39遺跡	40	その他開発	北海道大学埋蔵文化財調査センター
2				1,034	その他開発	
3				113.7	その他開発	
4	渡島	松前町	上川遺跡	20	学術研究	関根達人
5	後志	ニセコ町	西富遺跡	18	学術研究	西富遺跡調査グループ(高倉純)
6		ニセコ町	西富遺跡	20	学術研究	西富遺跡調査グループ(高倉純)
7	宗谷	稚内市	恵北1遺跡・声問大沼丘陵第10遺跡・シュプントー4遺跡・シュプントー5遺跡・シュプントー6遺跡	40	学術研究	福田正宏
8		礼文町	浜中2遺跡	41	学術研究	北海道大学アイヌ・先住民研究センター(加藤博文)
9	オホーツク	北見市	大島1(TK-10)遺跡	8	学術研究	東京大学大学院人文社会系研究科(熊本俊朗)
10			大島2(TK-11)遺跡	159	学術研究	
11		置戸町	置戸山2遺跡	6	学術研究	大塚宜明
12			共栄3遺跡隣接地	10	学術研究	中沢祐一
13			秋田10遺跡	16	学術研究	首都大学東京人文社会学部(出穂雅実)
14			遠軽町	タチカルシュナイ遺跡	18	学術研究
15	胆振	豊浦町	礼文華遺跡	104	学術研究	小杉康

調査面積合計
1,648m²

※ 詳しくは、各大学等へお問い合わせください。遺跡の位置などは、「北の遺跡案内をご覧ください。」

「北の遺跡案内」(http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/kitanoisekiannai.htm)

市町村による発掘調査の概要（令和元年度）

ご覧になりたい遺跡をクリックするとページに移動します。

石狩管内

札幌市 [H508遺跡](#)
[K556遺跡](#)
江別市 [高砂遺跡](#)
千歳市 [東丘7遺跡](#)

渡島管内

函館市 [史跡 垣ノ島遺跡](#)
[大船I遺跡](#)
[大船G遺跡](#)
[臼尻B遺跡](#)
[電電公社合宿舎遺跡](#)
森町 [鷲ノ木2台場跡](#)
[鳥崎遺跡](#)
[森棧橋遺跡](#)

檜山管内

上ノ国町 [史跡 上之国洲崎館跡](#)
[史跡 上之国花沢館跡](#)

後志管内

余市町 [八幡山遺跡](#)

宗谷管内

枝幸町 [目梨泊遺跡](#)
[東歌登遺跡](#)
利尻富士町 [沼浦海水浴場遺跡](#)

オホーツク管内

美幌町 [豊幌7遺跡](#)
湧別町 [シブノツナイ 竪穴住居群](#)

胆振管内

苫小牧市 [静川37・48・49遺跡](#)
伊達市 [若生2遺跡](#)
[有珠モシリ遺跡](#)
[カムイタプコプ下遺跡](#)
厚真町 [幌内8遺跡](#)

日高管内

様似町 [冬島遺跡](#)

根室管内

中標津町 [標津川9遺跡](#)
標津町 [ポー川河岸3遺跡](#)
羅臼町 [モイレウシ川南岸遺跡](#)

このホームページについてのお問合せや、
北海道の遺跡をもっと知りたい方は・・・

北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課

住所：札幌市中央区北3条西7丁目

電話：011-231-4111 内線35-626

北の遺跡案内

<http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/kitanoisekiannai.htm>

札幌市 H508遺跡 (A-01-508)

発掘主体：札幌市教育委員会（札幌市埋蔵文化財センター）
調査理由：詳細分布
調査地：札幌市東区丘珠町571番地3
調査期間：令和元年8月21日から9月27日まで
調査面積：374㎡

調査の概要

H508遺跡は、札幌市北部に広がる沖積平野に立地する縄文晩期～続縄文初頭の遺跡で、札幌北部の低地にあるモエレ沼の南西側に位置しています。現地表面の標高は5m前後、縄文晩期～続縄文初頭の旧地表面の標高は3m前後です。

H508遺跡は、札幌市農業体験交流施設「サッポロさとらんど」内に所在しており、平成23年度から遺跡の整備を進め、平成30年5月に「丘珠縄文遺跡」としてオープンしました。

これまで、平成25・26年度に確認調査を実施し、平成30年度から発掘調査を再開しています。

令和元年度の調査は、遺跡の詳細を把握するために、平成26年度及び平成30年度の調査区を一部拡張する形で実施しました。調査の結果、続縄文時代初頭の文化層で炉跡が発見されました。遺物は土器や石器等が出土しました。

なお、発掘調査の成果については、令和元年度末に調査概報を刊行する予定です。



調査状況

この遺跡についてのお問合せは・・・

札幌市埋蔵文化財センターまで

住所：札幌市中央区南22条西13丁目

電話：011-512-5430

開館時間：8:45～17:15

閉館日：祝日・振替休日・年末年始（ただし、5月3～5日、11月3日は開館）

札幌市 K556遺跡 (A-01-556)

発掘主体：札幌市教育委員会（札幌市埋蔵文化財センター）
調査理由：開発事業（道路）
調査地：札幌市北区西茨戸18-28ほか
調査期間：令和元年6月10日から11月8日まで
調査面積：7,090㎡

調査の概要

K556遺跡は、札幌市営地下鉄南北線麻生駅から北へ約5.5kmの、石狩市との市境付近に位置しています。沖積平野の北端部に立地し、遺跡の北西約60mを発寒川が流れています。現在の海岸線から遺跡までは約6.5kmで、遺跡付近の現在の標高は約2.5mです。今回の発掘調査では縄文時代晩期と縄文時代中期～後期の地層が確認され、前者の旧地表面の標高は0.8m～2.0m、後者は-1.1～1.1mでした。平成30年度に発掘調査を実施したK557遺跡は、K556遺跡の南西約150mに位置します。

縄文時代晩期の地層では、集石5基、屋外炉2基（うち1基は石囲炉）、黒曜石剥片集中1カ所、炭化物集中17カ所などの遺構、縄文土器・剥片石器・礫石器等の遺物が発見されました。集石は、長軸0.7～1.0m程度の浅い土坑や窪みから、多いもので117点の拳大の礫が出土しました。屋外炉から約5～6mのところを位置する3基の集石では、被熱により赤色化したと考えられる礫が含まれ、多量の炭化物を伴うことから、屋外炉と集石が関連していた可能性が考えられます。

縄文時代中期～後期の地層では、古い発寒川の流路と考えられる埋没河川とその河岸が発見され、それに沿った自然堤防頂部付近を中心に縄文土器・剥片石器・礫石器・石製品・堅果等が多量に出土しましたが、遺構は発見されませんでした。

なお、発掘調査の成果については、令和3年度末に発掘調査報告書として刊行する予定です。



集石検出状況

この遺跡についてのお問合せは・・・

札幌市埋蔵文化財センターまで

住所：札幌市中央区南22条西13丁目

電話：011-512-5430

開館時間：8:45～17:15

閉館日：祝日・振替休日・年末年始（ただし、5月3～5日、11月3日は開館）

江別市 高砂遺跡 (A-02-012)

発掘主体：江別市教育委員会

調査理由：開発事業（住宅）

調査地：江別市高砂町31-3

調査期間：令和元年6月1日から7月31日まで

調査面積：371㎡

調査の概要

高砂遺跡は、JR高砂駅の北西側に広がる遺跡です。かつてJR野幌駅付近に源を発し、石狩川へ注ぎ込んでいた旧モショッケ（虫除）川の右岸に位置します。

発掘調査は昭和39年から始まり、これまでに20回以上実施しています。これまでの調査で住居跡が220軒以上、墓や落し穴などの土壌が1500基以上を検出し、縄文時代早期～擦文時代の土器や石器を110万点以上発見しています。

今年度も、昨年度同様、縄文時代中期の住居跡が多く発見されているエリアを調査し、住居跡等6軒、土壌65基などを検出しました。住居跡は縄文時代中期に建てられたと考えられ、そのうち1軒は床の一部が粘土で硬く突き固められていました。いわゆる「貼床」なのかもしれません。土壌では、土器が逆さまの状態でおかれたもの（写真）や安山岩の礫（石器）がびっしりと入っていたもの（写真）を検出しました。発見した石（石器）の一部は接合するとみられることから、意図的に破砕して土壌に埋めたものかと思われます。この他に白色粘土の塊が覆土中に混入する土壌も検出しました。同様の土壌は昨年度も発見しましたが、どのような目的で白色粘土を埋めたのかは未だ謎のままです。

遺物は、土器・石器合わせて約13,200点を発見しました。土器は縄文時代中期のものが中心で、石器は石鏃などの剥片石器よりも敲石などの礫石器が多い傾向にあります。

来年度も高砂遺跡を調査する予定があり、今年度の調査成果と合わせて報告書にまとめ、刊行する予定です。



土器が埋められた土坑



礫が埋められた土坑

この遺跡についてのお問合せは・・・

江別市郷土資料館まで

住 所：江別市緑町西1丁目38

電 話：011-385-6466

開館時間：9:30~17:00（最終入場16:30）

閉館日：月曜日・祝日の翌日・年末年始

千歳市 東丘7遺跡 (A-03-301)

発掘主体：千歳市教育委員会
調査理由：開発事業（農業関連、土砂採取）
調査地：千歳市東丘1544-1、1545-1
調査期間：令和元年6月17日から6月21日まで
調査面積：550㎡

調査の概要

東丘7遺跡は、千歳市街地から北東17kmほど、三川駅からは南に4kmほど離れた、千歳市東部を流れる東丘川（嶮淵川支流）右岸の標高50～60mの丘陵部平坦面に位置しています。

当遺跡が位置する千歳市東部は、キウス周堤墓群をはじめ、東丘1～6遺跡、協和1～3遺跡、ホロカケネフチ1～16遺跡、トプシナイ1～3遺跡など多くの遺跡が存在しています。



竪穴住居跡

今回は、工事立会中に遺構が見つかったため、遺構部分を中心に発掘調査を行いました。

発掘調査の結果、縄文時代の遺物包含層から遺構と遺物が確認されました。遺構は、竪穴住居跡1軒、焼土1ヵ所が検出されました。竪穴住居跡は縄文時代後期のもので、覆土から焼土3ヵ所、炭化材、床面から黒曜石剥片集中が1ヵ所見られました。

遺物は、縄文時代中期末葉～後期初頭の土器が35点、石鏃・石斧・たたき石などの石器が157点出土しました。この内、特徴的なものとして砂岩製で多面的な研磨により、両端が挟まる形状の石製品が1点あります。周辺では千歳市のほかに、恵庭市・苫小牧市・厚真町でも同様につくられたものが分布しています。紡錘形のものや一端のみ尖るものなどがあり、それぞれの報告書によって、たたき石やすり石など器種分類が異なっていますが、いずれも同様の意図をもって製作されたものと考えられます。

千歳市の遺跡についてもっと知りたい方は・・・

千歳市埋蔵文化財センターまで

住所：千歳市長都42-1 電話：0123-24-4210

ホームページ：<http://www.city.chitose.lg.jp/docs/95-43785-169-915.html>

開館時間：平日、第二日曜日 9:30～17:00

閉館日：土曜日・日曜日・祝日・年末年始



函館市 史跡 垣ノ島遺跡 (B-01-258)

発掘主体：函館市教育委員会	調査理由：史跡整備
調査地：函館市臼尻町406-1～4、433、434-4・5 438、439、440-1・2、441-1・2、444、 552	調査期間：令和元年6月3日から9月18日まで 調査面積：24㎡

遺跡の概要

史跡垣ノ島遺跡は、函館市中心部から北東に約25km、太平洋に面した南茅部地域の垣ノ島川左岸、標高約32～50mの海岸段丘上に位置しています。

これまでの発掘調査の結果、大規模な盛り土遺構をはじめ、縄文早期から後期にかけてのおよそ6,000年間という長期間にわたり営まれた拠点集落であったことがわかり、縄文時代の遺跡が多い南茅部地域において、中心的な遺跡として位置付けられ、平成23年2月7日に国の史跡に指定されました。その後、史跡整備に向けて主要な遺構である盛り土遺構の発掘調査を行い、その全体規模や形状を捉えることができ、これらの成果をまとめた総括報告書を平成28年度に刊行しました。平成29年度からはこれまでの調査成果をもとに遺構の保存を前提とした保存整備事業を取り進めています。

調査の概要

今年度は保存整備工事に伴い、主に園路や建物など造作物の設置が計画されている地点のうち、これまでの調査成果を補完するよう未調査部分で、遺構保護を目的とした発掘調査を24箇所で行いました。

調査区は1×1mを基本として、表土から人力で掘り下げ、縄文時代前期以降の遺物包含層であるⅢ層(クロボク土)を調査し、Ⅳa層(駒ヶ岳a火山灰：約6,000年前降下)上面を検出し、遺構の有無を確認しました。その後、レベルを計測するとともに、縄文期の層に至るまでの各層の有無や層厚など土層堆積状況を記録しました。

調査の結果、表土以下、標準的な土層堆積を示し縄文期の層が良好に残存する箇所や、耕作や植樹等の土地利用の影響で駒ヶ岳a火山灰が厚く集積する箇所、一部削平を受けている箇所など、造成範囲の地下の状況を事前に把握したことで、これまでの調査成果と合わせ、整備工事において地下の遺構に影響が無いことを、改めて確認することができました。

出土した遺物は、土器は縄文前期後半から後期初頭にかけてのもので、円筒下層式、円筒上層式、榎林式、大安在B式、レンガ台式、天祐寺式等があります。石器は、スクレイパー、石斧、擦石、敲石等が出土しています。

これまでに環境整備や盛り土遺構造成工事、園路や広場などの整備工事を行いました。今後は便益施設や案内板などを整備し、一般公開に向け取り組んでいます。



調査状況



遺物出土状況

この遺跡についてのお問合せや、
函館市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

函館市教育委員会 生涯学習部文化財課世界遺産登録推進担当

住所：函館市東雲町4-13 電話：0138-21-3563

ホームページ：<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/bunkazai/>

市立函館博物館

住所：函館市青柳町17-1 電話：0138-23-5480

ホームページ：<http://hakohaku.com/>

開館時間：(4月～10月) 9:00～17:00、(11月～3月) 9:00～16:30

休館日：月曜日・毎月最終金曜日・祝日・年末年始など

函館市縄文文化交流センター

住所：函館市臼尻町551-1 電話：0138-25-2030

ホームページ：<http://www.hjcc.jp/>

開館時間：(4月～10月) 9:00～17:00、(11月～3月) 9:00～16:30

閉館日：月曜日・毎月最終金曜日・年末年始など



函館市 大船G遺跡 (B-01-302)

発掘主体： 函館市教育委員会

調査地： 函館市大船町553-5、536-1・3・4・7、
538-3・4、河川敷地、国有地

調査実施： 一般財団法人道南歴史文化振興財団

調査期間： 令和元年10月4日から10月31日まで

調査理由： 開発事業（道路）

調査面積： 3,854㎡のおよそ25%

調査の概要

大船G遺跡は、函館市南茅部地域の大舟川から西へ約500mの沢の左岸、海岸段丘上に位置しています。調査区の標高は45～61mです。この沢の右岸には大船I遺跡が位置しています。調査区北側は比高差約10mの沢となっていて、この沢の更に北側の同じ段丘上には大船E遺跡が位置しています。遺跡の西側は背後の丘陵へやや急傾斜で続き、南東側は史跡大船遺跡が広がる緩斜面が400mほど続いた後、急傾斜をなし更に100mほどで海岸にいたります。

調査の概要

今回の調査は来年度予定される本調査に向け、遺構や遺物の状況を把握する目的で調査区全体を格子状に区切ったうち、飛び石状におよそ25%の面積について実施しました。

縄文時代前期以降の遺物包含層（Ⅲ層）について堅穴建物の可能性があるⅡ層（駒ヶ岳d火山灰・B-Tm火山灰）の落ち込みや、Ⅳ層（駒ヶ岳f・g火山灰）上面で確認されたⅢ層の落ち込み等については確認のみで、遺構調査は令和2年度以降に実施する予定です。

遺物は縄文時代前期～晩期の土器が確認されたほか、石器類では、石鏃、スクレイパー、石斧、敲石、擦石などが出土しました。また、魚形石器に類似したものが1点確認され、続縄文時代の可能性があります。遺物総数は約2,500点です。

報告書は、令和2年度以降に刊行の予定です。



調査区（上空から）



作業風景

この遺跡についてのお問合せや、函館市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

◆大船G遺跡について

函館市教育委員会 生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当

住所：函館市東雲町4-13 電話：0138-21-3472

ホームページ：<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/bunkazai/>

◆函館市内の遺跡について

函館市縄文文化交流センター

住所：函館市白尻町551-1 電話：0138-25-2030

ホームページ：<http://www.hjcc.jp/>

開館時間：（4月～10月）9:00～17:00、（11月～3月）9:00～16:30

閉館日：月曜日・毎月最終金曜日・年末年始など



函館市 大船I遺跡 (B-01-324)

発掘主体： 函館市教育委員会
調査実施： 一般財団法人道南歴史文化振興財団
調査理由： 開発事業（道路）

調査地： 函館市大船町552-3、553-1、554-1~4、河川敷地
調査期間： 令和元年5月8日から10月3日まで
調査面積： 4,881㎡

調査の概要

大船I遺跡は、函館市南茅部地域の大舟川から北西へ約500mの沢の右岸、海岸段丘上に位置しています。調査区の標高は45~57mです。遺跡の西側は背後の丘陵へやや急傾斜で続き、東側は史跡大船遺跡が広がる緩斜面が400mほど続いた後、急傾斜をなし更に100mほどで海岸にいたります。沢の対岸には大船G・E遺跡、南側の同じ海岸段丘上には大船H遺跡が位置しています。

調査の概要

当地区では、層厚約50cmの駒ヶ岳火山灰（IV層：Ko-f・g）の上下に文化層が認められる場合がほとんどで、上層をⅢ層（縄文前期以降）、下層をⅤ層（早期）として2層の調査を実施しています。本遺跡では調査区全域にⅤ層は認められず、南東側で局所的に認められたⅤ層相当の暗褐色土160㎡について調査を実施しましたが、遺構や遺物は確認されませんでした。

Ⅲ層調査で確認した遺構は、竪穴建物跡8軒、土坑54基、柱穴状土坑2基、剥片集中2カ所です。遺構の多くは調査区北西の沢に面した段丘縁辺部に位置しています。竪穴建物跡の平面形は、隅丸長方形、円形などで、最小2.1×2.0mから最大8.2×5.9mの規模です。先端ピットを伴うもの、埋甕炉、石囲炉、地床炉をもつものがあります。建物跡周辺には土坑が集中して検出されました。深さ1.0m前後の掘立柱跡と推測されるものが2基認められるほかは、直径1.0m前後、深さ0.5m前後のものが大半です。遺構の内外から出土した土器の時期から、これら遺構の多くは縄文時代中期後半に属するものと考えられます。

遺物は縄文時代前期後半から晩期、続縄文時代におよぶ土器が出土しています。中期後半の見晴町式土器が主体で、ほかに榎林式が少量出土しています。その他の時代の土器は破片が数点確認されています。石器類では、石鏃、スクレイパー、石斧、敲石、擦石、石皿など合わせて約7,000点が出土しています。

報告書は、令和元年度に刊行の予定です。



遺跡位置図



作業風景

この遺跡についてのお問合せや、函館市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

◆大船I遺跡について

函館市教育委員会 生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当

住所：函館市東雲町4-13 電話：0138-21-3472

ホームページ：<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/bunkazai/>

◆函館市内の遺跡について

函館市縄文文化交流センター

住所：函館市白尻町551-1 電話：0138-25-2030

ホームページ：<http://www.hjcc.jp/>

開館時間：（4月~10月）9:00~17:00、（11月~3月）9:00~16:30

閉館日：月曜日・毎月最終金曜日・年末年始など



函館市 電電公社合宿舎遺跡 (B-01-295)

発掘主体：函館市教育委員会	調査地：函館市臼尻町353、354-1、355-1
調査実施：一般財団法人道南歴史文化振興財団	調査期間：令和元年5月7日から7月11日まで
調査理由：開発事業（道路）	調査面積：470㎡

遺跡の概要

電電公社合宿舎遺跡は、臼尻漁港臨港道路建設工事に伴って平成27～29年度に調査を実施しており、今回はこれに続く調査となります。遺跡は昭和51年度の南茅部電報電話局合宿舎建設に伴う試掘調査で発見され、同年の発掘調査では縄文時代早期の土坑群や後期の土器を確認しています。平成28・29年度の調査においては早期の半円状を呈す大規模な遺物分布帯と竪穴建物跡や土坑群、後期の竪穴建物跡や土坑を主体とした集落跡を確認しています。

調査の概要

今年度は、前回の調査に引き続き駒ヶ岳f火山灰・駒ヶ岳g火山灰より上位の縄文時代前期以降の遺物包含層（Ⅲ層）と同火山灰より下位の縄文時代早期の遺物包含層（Ⅴ層）を調査しました。Ⅲ層の調査では竪穴建物跡4軒、竪穴状遺構1基、土坑26基、柱穴状土坑7基、焼土2カ所、剥片集中1カ所を確認しました。このうち、竪穴建物跡4軒については平成29年度の調査で主体部が調査されており、今回は調査区の境界にその一部を確認しています。土坑や柱穴状土坑の多くは調査区北側の竪穴建物跡に近い位置にあり、南側の緩斜面に竪穴状遺構1基と土坑9基が点在しています。これらの遺構の時期については出土遺物や過年度調査の成果などから、大半は後期前葉に属すると考えられます。

Ⅴ層の調査では竪穴建物跡1軒、竪穴状遺構3基、土坑18基、焼土8カ所を確認しました。竪穴建物跡及び竪穴状遺構は調査区南側の緩斜面にまとまり、一部重複しています。竪穴建物跡は平面形が楕円形を呈し、長軸4m弱の規模です。これらの遺構は床面及び周辺から出土した遺物から早期後葉に属するものと考えられ、この東側に早期の半円状遺物分布帯が位置します。

遺物は合計約2,300点が出土しており、内訳としては後期前葉の土器（Ⅲ層出土）、早期後葉の土器（Ⅴ層出土）、剥片石器、剥片、石核、礫石器、礫があります。Ⅴ層の早期に伴う石器ではつまみ付ナイフが多く出土しています。

報告書は、令和3年度に刊行の予定です。



遺跡位置図



調査区全景

この遺跡についてのお問合せや、函館市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

◆大船I遺跡について

函館市教育委員会 生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当

住所：函館市東雲町4-13 電話：0138-21-3472

ホームページ：<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/bunkazai/>

◆函館市内の遺跡について

函館市縄文文化交流センター

住所：函館市臼尻町551-1 電話：0138-25-2030

ホームページ：<http://www.hjcc.jp/>

開館時間：（4月～10月）9:00～17:00、（11月～3月）9:00～16:30

閉館日：月曜日・毎月最終金曜日・年末年始など



函館市 白尻B遺跡 (B-01-241)

発掘主体： 函館市教育委員会	調査地： 函館市白尻町324、325-1・2、330～332、333-1
調査実施： 一般財団法人道南歴史文化振興財団	調査期間： 平成31年4月17日から4月26日まで 令和元年7月12日から11月29日まで
調査理由： 開発事業（道路）	調査面積： 4,219㎡

遺跡の概要

白尻B遺跡は、かつて昭和51～54年、昭和59～62年までの8ヵ年にかけて調査が行われており、縄文時代の竪穴建物跡330軒とその他多数の遺構、膨大な量の遺物が出土しています。主体となるのは縄文時代中期の集落跡で、代表的な遺構・遺物としては竪穴建物跡の床面に掘られたフラスコ状ピットに伴って出土した大人と子供の合葬人骨、シカが描かれた絵画土器（函館市指定文化財）などが知られています。

調査の概要

今年度は、過年度調査地点に隣接する東側の区域を調査しました。その結果、過年度に確認した縄文中期集落跡の一部を調査地点の北側で確認しました。また、南側には新たに縄文後期の遺構・遺物を確認しています。遺構数は全体で竪穴建物跡22軒、竪穴状遺構1基、土坑墓6基、土坑81基、焼土13ヵ所、柱穴状土坑34基です。

北側で確認した竪穴建物跡は全て中期のもので19軒あります。このうち大型の竪穴建物跡は中期中頃のサイベ沢Ⅶ式土器が使われていた頃に構築されたもので、規模は長軸約9mで、支柱穴が6基確認できたことから6本柱の建物であることがわかります。床面中央付近に小型の土器を埋め込んだ炉跡が確認できました。竪穴の壁際に土坑墓4基とフラスコ状ピット2基を確認しており、竪穴が埋葬や貯蔵を目的として使用された時期もあったようです。フラスコ状土坑の底面から数体の人骨を確認しており合葬墓として使われたことが窺えます。

山側の地点では、縄文後期の竪穴建物跡2軒を確認しています。このうち2軒は焼失住居であり、それぞれ後期中葉の鯉淵式土器、後葉の堂林式土器が使用されていた時期のものと思われる。後者の竪穴建物跡は規模が長軸2m程度のもので、床面に小型の礫を円形に並べた石囲炉と立石が確認されました。

土坑は竪穴建物跡の外で確認したフラスコ状土坑が6基程あり、ほか礫を伴った小型の土坑などが確認できました。柱穴状土坑や焼土も確認されており、これらは竪穴建物跡の集中する地点に比較的多くみられました。

遺物は遺構内と包含層を合わせ土器、剥片石器、礫石器、土製品、石製品など約15,000点が出土しています。特異な遺物としては中期の竪穴建物跡や土坑墓から出土した黒曜石製の異形石器、青竜刀形石器、孔の開いた円盤状の土製品や石製品、端部を窪ませた太さ15cm程の石棒などがあります。

報告書は、令和3年度に刊行の予定です。



遺跡位置図



調査区（上空から）

この遺跡についてのお問合せや、函館市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

◆白尻B遺跡について

函館市教育委員会 生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当

住所：函館市東雲町4-13 電話：0138-21-3472

ホームページ：<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/bunkazai/>

◆函館市内の遺跡について

函館市縄文文化交流センター

住所：函館市白尻町551-1 電話：0138-25-2030

ホームページ：<http://www.hjcc.jp/>

開館時間：（4月～10月）9:00～17:00、（11月～3月）9:00～16:30

閉館日：月曜日・毎月最終金曜日・年末年始など

森町 鳥崎遺跡 (B-14-017)

発掘主体：森町教育委員会

調査理由：詳細分布

調査地：茅部郡森町字鳥崎町4-1地先他

調査期間：令和元年6月13日から11月8日まで

調査面積：18㎡

調査の概要

鳥崎遺跡は森町市街地から西に1 kmほど離れた市街地に位置し、内浦湾に面する標高15～17mの段丘上に立地しています。

最初の調査は昭和34年に行われており、縄文後期の良好な資料が発見され「トリサキ式土器」の標識遺跡となっています。昭和58年にはJR函館本線の複線化に伴う発掘調査により縄文後期を主とする遺物の出土や近世の畝状遺構が検出されています。また、このときの調査と近い時期には、縄文晩期の土偶と壺形土器が表採されています。平成30年度の調査では、遺跡範囲北側の斜面上で遺物包含層と推測される黒色土の露出と遺物の散布を確認しています。

令和元年度の調査は、遺跡の状況を確認することを目的として、標高1～6mの斜面上に4箇所調査区を設定し発掘調査を行いました。調査の結果、1640年の駒ヶ岳火山灰層(Ko-d)、黒色土層、粘土層が層序を成さずに乱雑に堆積していたため、崩落土であることが分かりました。黒色土中からは縄文前期末を主とする遺物が出土しています。

発掘調査とともに、遺物散布状況を把握するため周辺域の踏査も実施しました。現在把握している遺跡の範囲に隣接した西側の海岸段丘斜面上では、主に縄文晩期の遺物を表採することができました。この踏査によって、西側の段丘上にも縄文晩期の遺跡が存在する可能性ができました。

これらの調査成果は、鷲ノ木2台場跡、森棧橋跡と合わせて令和元年度末に発掘調査報告書として刊行予定です。



調査地



遺物散布状況

この遺跡についてのお問合せや、森町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

◆鳥崎遺跡について

森町教育委員会まで

電話：01374-2-2186

◆森町内の遺跡について

森町遺跡発掘調査事務所まで

住所：茅部郡森町字森川町292-24

電話：01374-3-2240

開館時間：9:00～16:00

閉館日：土日祝日・年末年始

森町 鷺ノ木2台場跡 (B-14-026)

発掘主体：森町教育委員会

調査理由：詳細分布

調査地：茅部郡森町字鷺ノ木町455他

調査期間：令和元年7月18日から11月8日まで

調査面積：63㎡

調査の概要

鷺ノ木2台場跡は森町市街地から西に4kmほど離れた内浦湾沿いの段丘上に位置しており、史跡鷺ノ木遺跡と同一の丘陵上に立地しています。箱館戦争に先立ち、榎本武揚率いる旧幕府軍が築いた台場の一つと伝えられていますが、位置や詳細は不明な遺跡です。平成29年度に実施した発掘調査では、縄文時代の包含層が確認されました。

今年度の調査は、台場跡の位置の特定と縄文時代の遺跡の広がりを確認することを目的として実施し、JR湯ノ崎トンネル上の丘陵上に7箇所（TP-9～15）の調査区を設定し発掘調査を行っています。全ての調査区において縄文時代の包含層を確認することができ、大形の土坑や遺物の集中を検出することができました。遺物は縄文時代前期～後期までの遺物が出土しており、とりわけ縄文時代中期の遺物が多くみられます。これらの調査結果から、JR湯ノ崎トンネル上の段丘上は広い範囲で縄文時代の遺跡が広がる可能性があります。遺跡が所在する段丘周辺には他にも複数の遺跡が分布していますが、これらの遺跡との関連については今後の課題です。

目的の一つであった台場跡の位置の特定は発掘調査で判明させることができず、周辺の踏査により方形を呈する竪穴状の窪地を発見するに留まりました。この窪地の性質を把握することも課題となります。

これらの調査成果は、鳥崎遺跡、森棧橋跡と合わせて令和元年度末に発掘調査報告書として刊行予定です。



TP-14



TP-15

この遺跡についてのお問合せや、森町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

◆鷺ノ木2台場跡について

森町教育委員会まで

電話：01374-2-2186

◆森町内の遺跡について

森町遺跡発掘調査事務所まで

住所：茅部郡森町字森川町292-24

電話：01374-3-2240

開館時間：9:00～16:00

閉館日：土日祝日・年末年始

森町 森棧橋跡 (B-14-027)

発掘主体： 森町教育委員会

調査理由： 詳細分布

調査地： 森町字御幸町28地先

調査期間： 令和元年6月26日から11月8日まで

調査面積： 22㎡

調査の概要

森棧橋跡は市街地中心部を流れる森川の河口から西に330mほど離れた海岸上に位置しています。波打ち際に立地しており、満潮時には海面下、干潮時は陸上となる状況が繰り返される特殊な環境にある海底遺跡です。森-室蘭間を結ぶ定期航路の発着場として、明治5年に築造が開始され翌6年に完成した全長約257.5m、幅6.3mの「く」の字形に折れ曲がる木製の棧橋です。定期航路は明治26年に一度廃止となるも明治41年に再開、昭和3年に再び廃止となり現在に至りません。

自然現象による遺跡の消失が危惧され、平成30年には現況を把握するための測量調査を行い、南北約33.3m、東西11mの範囲に239本の杭と15枚の板材を記録しています。今年度は、砂に埋没している杭や板材の残存状況と遺跡の市街地側への広がりを確認するための調査を行いました。地表に露出していた杭の東には厚さ1~2cmの板で囲まれた、市街地へ続くコンクリート製と思われる建造物跡と、南側では砂に埋没していた未記録の杭と板材が出土しており、棧橋跡の範囲が南へ広がることが分かりました。

これらの調査成果は、鳥崎遺跡、鷲ノ木2台場跡と合わせて令和元年度末に発掘調査報告書として刊行予定です。



調査地



調査状況

この遺跡についてのお問合せや、森町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

◆森棧橋跡について

森町教育委員会まで
電話：01374-2-2186

◆森町内の遺跡について

森町遺跡発掘調査事務所まで
住所：茅部郡森町字森川町292-24 電話：01374-3-2240
開館時間：9:00~16:00 閉館日：土日祝日・年末年始



発掘主体：上ノ国町教育委員会

調査地：檜山郡上ノ国町字北村137-1、124-2番地

調査理由：遺構の内容確認

調査期間：令和元年5月16日から11月22日まで

調査面積：46㎡

調査の概要

洲崎館跡は、天の川の河口から北に約1kmの日本海に面した標高5m前後の砂丘平坦面上に所在しています。洲崎館跡は、1457年に起きたアイヌと和人との戦い（コシャマインの戦い）においてアイヌの侵攻を抑えた武田信広が築城したといわれています。平成11～13、30年度に発掘調査が行われ、13世紀後半～16世紀前半に相当する青磁・白磁・染付・古瀬戸などの陶磁器、釘や和鏡などの金属製品、アイヌの骨角器が出土しています。遺構は史跡の南東部に掘立柱穴跡や竪穴建物跡といった中世の集落に関する遺構が見つかっています。

令和元年度では2つの調査区を設け、第1調査区は空堀・土塁、第2調査区は柵・建物と思われる箇所遺構確認を目的として発掘調査を実施しました。

成果としては、第1調査区では1640年に駒ヶ岳から噴出した火山灰層（Ko-d層）の下に空堀、土塁と考えられる遺構が検出されました。第2調査区では、直径20cmほどの柱穴が列状になって検出されました。

遺物は、瓦と陶磁器が近現代の地層もしくは排土から出土しましたが、中世に相当する地層からは出土しませんでした。

今年度の調査で、空堀や土塁などの遺構が検出され、今まで不明だった洲崎館の城館としての構造が明らかになり始めました。次年度も遺構の規模・構造を把握するために調査を継続する予定です。

報告書の刊行は令和元年度末に予定しています。



洲崎館跡 史跡遠景



第1調査区 空堀検出状況

この遺跡についてのお問合せは・・・

上ノ国町教育委員会

住所：檜山郡上ノ国町字大留100番地

電話：0139 - 55 - 2230

**上ノ国町 史跡 上之国館跡のうち花沢館跡** (C-02-070)

発掘主体：上ノ国町教育委員会

調査地：檜山郡上ノ国町字勝山172-1番地他

調査理由：遺構の内容確認

調査期間：令和元年5月16日から11月22日まで

調査面積：212㎡

調査の概要

花沢館跡は、天の川河口左岸にある標高約20～60mの丘陵上に位置しており、室町時代の後半（1430年頃）に蠣崎季繁によって築かれた山城といわれています。平成16年・17年の調査では頂上部で15世紀中頃に相当する青磁、白磁、珠洲焼といった陶磁器や銅銭などが出土しています。そして、頂上部より前方(北)で柵列や溝状遺構、後方(南側)に空堀と土塁が検出されました。

令和元年度は11の調査区を設け、第1～9の調査区は旧道と柵等、第10調査区は土塁・空堀、第11調査区は建物跡と思われる箇所遺構確認の目的として発掘調査を行いました。

成果としては、頂上部の前方の平坦地では、地面を削って平坦地（腰曲輪）や急斜面の崖（切岸）の造成を行っていることがわかりました。また、西側の丘陵中腹の細い通路で旧道の跡が確認されています。それから、頂上部の後方では過年度に引き続き、空堀と土塁が検出されました。そして、頂上部とその直下の平坦地では焼土面や柱穴、集石遺構といった様々な遺構が検出されました。

遺物は、15世紀中頃の青磁碗、白磁皿・坏、珠洲のすり鉢・古瀬戸卸皿・茶入の陶磁器、骨角器（中柄、骨鏃）・鉄鍋・銅銭・砥石・温石・茶臼・刀装具など多種多様に出土しました。

今年度の調査で特に重要な成果は、館前方の地面を削平して切岸などで、防御を固めていることがわかったこと、頂上部とその付近で焼土面が検出され、戦や廃城に伴う火災が起きていた可能性が考えられることです。そして、遺物については、今回の調査で初めて骨角器が出土したことでアイヌとの関わりがあることがわかりました。また、茶道具である茶臼、茶入が出土したことで文化的な側面が見えてきました。

報告書の刊行は令和元年度末を予定しています。



花沢館 史跡遠景



第8調査区 骨角器出土状況

この遺跡についてのお問合せは・・・

上ノ国町教育委員会

住 所：檜山郡上ノ国町字大留100番地

電 話：0139 - 55 - 2230

余市町 八幡山遺跡 (D-19-030)

発掘主体： 余市町教育委員会 調査期間： 令和元年5月13日から10月31日まで
調査理由： 開発事業（道路） 調査面積： 1,800㎡
調査地： 余市郡余市町黒川町707

調査の概要

八幡山遺跡は、余市町の市街地から5kmほど離れた黒川町登川線沿い、標高8～15mを測る丘陵地の緩斜面上に位置しています。

遺跡の調査は平成30年12月に開通した後志自動車道余市ICから仁木方面へ延伸する一般国道5号俱知安余市道路（共和-余市）の建設に伴い平成30年度より始まりしました。令和元年度調査では、縄文住居4軒、擦文住居1軒の他、土坑、小土坑、剥片集中、性格不明遺構が検出されました。また、出土遺物は縄文土器、続縄文土器、擦文土器、近世陶磁器、石器（石鏃、石斧、台石、擦石、石核、剥片・チップ）、金属器など、総点数約12,000点です。

1号縄文住居は縄文時代中期の楕円形の住居で、大きさは4.0×2.9m、深さ約15cmを測ります。住居内に、柱穴2基の他、住居南側で壁柱穴とよばれる柱穴21基確認されました。2号縄文住居は縄文時代中期末の卵形と考えられる住居で、大きさは5.6×3.0m（一部が調査区外）、深さ14cmを測ります。住居内では2基の石囲炉が確認されています。炉からは町内で初めて縄文時代のイノシシの幼体の骨片（歯冠破片）が確認されました。また、住居は改築・拡張が行われており、炉1は拡張前、炉2は拡張後の住居で使われていたものです。3号擦文住居は9世紀ごろの住居で、大きさは4.6×5.1m、深さ約28cmを測ります。3号擦文住居は昨年度・今年度の調査区をまたいで検出されました。住居内では昨年度調査された1号・2号擦文住居と同様に南西の壁にカマドが確認され、床面からは機織りに使用されたとみられる礫が多量に出土しました。

昨年度調査では、擦文時代の集落が町の東側にも広がっていたことがわかり、今年度調査ではこれまで町内では確認されていなかった標高10～20m前後の縄文時代の集落の状況が新たにわかる結果となりました。報告書の刊行は令和2年3月を予定しています。



調査区遠景



1号縄文住居

この遺跡についてのお問合せは・・・

余市水産博物館まで

住所：余市町入舟町21

電話：0135-22-6187

開館時間：9:00～16:30

閉館日：月曜日、祝日の翌日、12月上旬～4月中旬頃に冬期休館（休館中は平日であればお問い合わせに対応いたします。）

枝幸町 目梨泊遺跡 (H-05-042)

発掘主体：枝幸町教育委員会

調査期間：令和元年8月16日から8月24日まで

調査理由：学術研究

調査面積：14m²

調査地：枝幸郡枝幸町目梨泊43-2

調査の概要

目梨泊遺跡は枝幸町の北部、神威岬を望むオホーツク海に面した段丘上に立地します。昭和62年から平成6年にかけて、枝幸町教育委員会による発掘調査が行われ、20万点を超える大量の遺物が出土しました。この中には本州からもたらされた「蕨手刀」や大陸製の「青銅製帯飾」など数々の交易品が含まれており、オホーツク文化の交流・交易の様相を伝える資料として、平成12年に319点が国重要文化財に指定されています。

平成11年に枝幸町の博物館施設「オホーツクミュージアムえさし」が開館して以後は、筑波大学、さらに札幌大学と連携して町の調査研究事業として学術調査を行っています。

また、平成30年度からは、「ふるさと」の歴史を地域住民とともに学ぶ取り組みとして、地元の北海道枝幸高等学校の生徒が調査に参加しました。

本年度は、昨年度出土した「金銅装直刀」が副葬された墓壇の調査を中心に行いました。第42号土壇墓と名付けた墓壇の調査を進めた結果、目梨泊遺跡に広くみられる長方形の伸展葬墓ではなく、円形のピットとなっていることが分かりました。

墓壇内からは、金銅装直刀の付属品と思われる金銅装の「鞆尻金具」、土器底部、鯨骨片、人頭大の円礫が出土しました。この円礫はその特徴から神威岬から運ばれた可能性が高いことが分かりました。

今回の調査によって、金銅装直刀のほぼ全ての部品がそろったこととなります。刀装具を金で覆い、緻密な宝相華文を彫金した豪華な武具ですが、国内でもあまり類例のない資料であり、その生産地や流入経路などはまだ分かっていません。今後の分析によって、オホーツク文化の人の交易活動の新たな一面が明らかになるでしょう。

なお、金銅装直刀は令和2年4月から公開予定です。



金銅装直刀・足金具・小刀



足金具（宝相華文を彫金）

目梨泊遺跡についてもっと知りたい方は・・・

オホーツクミュージアムえさし まで

住所：枝幸郡枝幸町三笠町1614-1 電話：0163-62-1231 メール：museum@esashi.jp

開館時間：9:00~17:00 閉館日：毎週月曜、月末の火曜

枝幸町 東歌登遺跡 (H-05-072)

発掘主体： 枝幸町教育委員会

調査地： 枝幸郡枝幸町歌登東歌登4948番地1

調査理由： 学術調査

調査期間： 令和元年10月25日から10月28日まで

調査面積： 6㎡

調査の概要

東歌登遺跡は、枝幸町の内陸部、歌登市街地の北東に位置しています。枝幸町を東西に貫流する北見幌別川とその支流、パンケナイ川との合流点を望む右岸段丘上に立地しています。この遺跡の対岸は歌登市街地を区画する起点となった「崖」があり、明治時代の地図には「チャシ」という標記も見られます。

枝幸町の博物館施設「オホーツクミュージアムえさし」では、平成30年度から「ふるさと」の歴史を地域住民とともに学ぶ取り組みを進めており、本遺跡は地域住民からの情報提供によって新たに発見されたものです。

令和元年春、地域住民から「川の近くにカワシンジュガイがたくさん散らばっている場所がある」という情報が寄せられました。現地を確認したところ、カワシンジュガイが人為的に廃棄された可能性が高いと判断し、試掘調査を行いました。

北海道博物館などの協力を得て、現地調査を行った結果、縄文時代中期～後期の土器片、続縄文時代の後北C₂-D式土器片、解体痕のあるヒグマの尺骨、寛永通宝（新寛永）などが表面採集され、試掘調査によってさらに磨製石斧や黒曜石剥片などが出土しました。

調査の結果、この遺跡は縄文時代から近世・近代までの複数の時期を含むことが分かりました。また、カワシンジュガイの貝層をサンプリングして篩にかけたところ、ホタテやタマキビ、マガキといった海産貝類、イトウを含むサケ科魚類やニシン、メバルなどの海生魚類の骨が多量に含まれていることが判明しました。

江戸時代から明治時代にかけての「黎明期の枝幸」の人びとがどのような暮らしを送っていたかを考える貴重な資料となりました。この時代の人びとの暮らしがうかがえる遺跡は、道北地方でも決して多くありません。来年度も追加調査を実施する予定です。



遺跡全景



出土した寛永通宝

目梨泊遺跡についてもっと知りたい方は・・・

オホーツクミュージアムえさし まで

住所： 枝幸郡枝幸町三笠町1614-1 電話： 0163-62-1231 メール： museum@esashi.jp

開館時間： 9:00~17:00

閉館日： 毎週月曜、月末の火曜

利尻富士町 沼浦海水浴場遺跡 (H-10-016)

発掘主体：利尻富士町教育委員会（礼文・利尻島遺跡調査の会）

調査理由：学術研究

調査地：利尻郡利尻富士町鬼脇字沼浦146・188-1番地

調査期間：平成31年4月25日から令和元年5月25日まで

調査面積：8.5㎡

調査の概要

沼浦海水浴場遺跡は、利尻島の南東部に所在する沼浦地区に位置しており、標高4～5mほどの砂浜海岸に立地しています。本地区は、アイヌ語で「ヲタマリ（砂浜のある入江）」とよばれ、周辺には沼浦湿原やオタタマリ沼などの景勝地が広がっています。

沼浦地区は、明治時代においてすでに遺物採集の記録があり、その後昭和時代に入ってから小規模な試掘調査が数度にわたり行なわれました。各調査では、続縄文時代やオホーツク文化期を中心とした土器や石器のほか動物骨などが多数出土しています。

沼浦海水浴場遺跡の調査は、4次目で最終年となりました。今回の成果としては、1次調査で発見されたオホーツク文化初期の竪穴住居跡の規模（9m×6m程度）が明らかになったことと床面から鉄鏝が出土したこと、また時期は不明ながら、調査区の広い範囲で木質の堆積層や鉄釘が見つかったことです。

また、将来的な展示を見据えて、遺存状態の良いA4区において、土層面の剥ぎ取りを行ないました。



竪穴住居跡（B9区）



住居床面から出土した鉄鏝

この遺跡についてのお問合せや、利尻富士町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

利尻富士町教育委員会

電話：0163-82-1370 メール：kyoui-shakyo@town.rishirifuji.hokkaido.jp

りっぶ館

住所：利尻富士町鷺泊字栄町 電話：0163-82-1721 開館期間：5月1日～10月31日（9:00～17:00）

湧別町 シブノツナイ堅穴住居群 (I-21-035)

発掘主体： 湧別町教育委員会 調査期間： 令和元年7月18日から8月14日まで
調査理由： 詳細分布 調査面積： 7㎡
調査地： 紋別郡湧別町川西499-1・2, 502-1・2, 503, 506-1・2, 714, 717~720, 722-1~3, 930

調査の概要

シブノツナイ堅穴住居群は湧別市街地から西に4kmほど、シブノツナイ湖と湧別川の支流センサイ川に挟まれた標高4~5mの台地の北端に位置しています。

この遺跡の特徴は、堅穴住居跡と考えられる窪みが地表面で確認できることと、その窪みが約4haの範囲の中に530か所も確認できることです。昭和42年3月17日には北海道指定史跡「シブノツナイ堅穴住居跡」として指定されています。堅穴住居跡の平面形状を見ると、その半数以上が方形であることから、大半の堅穴住居跡が擦文文化期（約1000年前）のものだと考えられています。しかし、平面形状は方形だけでなく、円形・柄鏡形・多角形なども確認できることから、この遺跡は縄文文化・続縄文文化・オホーツク文化など様々な時期にわたる可能性も指摘されています。

平成30年度からは湧別町が主体となって発掘調査を行っており、今年度は2か所で発掘調査を行いました。1か所は、堅穴住居群北側の平坦地の中央部分で、1×5mの範囲です。調査目的は、続縄文から擦文文化期に平坦地がどのように利用されていたかを知ることでした。調査の結果、ここでは堅穴住居跡や土器・石器が確認されず、平坦地の中でも部分的に当時の人々が作業などを行っていない場所があることがわかりました。2か所目は、堅穴住居群の南東に位置する地表の窪みの内、0.5×4.3mの範囲です。調査目的は、堅穴住居跡の時期を特定することでした。現地表面で確認できる窪みの平面形状は円形のため、擦文文化以外の痕跡が確認されることが期待されましたが、今回の調査では時期の特定には至りませんでした。しかし、窪み自体はその上層の堆積状況などから擦文文化以前に人の手によって掘られた穴であることは明らかで、何らかの建物跡であることが確認できました。

今年の調査成果として、発掘調査概要報告書を令和2年3月末に刊行予定です。発掘調査は来年度も同程度の規模で実施予定です。



シブノツナイ堅穴住居群 全景



431号堅穴

この遺跡についてのお問い合わせや、湧別町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

湧別町教育委員会ふるさと館 J R Y ・ 郷土館まで

住所：湧別町北兵村一区588番地 電話：01586-2-3000

開館時間：9:00~16:30（入館は16:00まで） 閉館日：月曜日（祝日は開館）、年末年始

美幌町 豊幌7遺跡 (I-06-136)

発掘主体：湧別町教育委員会 調査期間：令和元年8月1日から8月10日まで
調査理由：農業関連（区画整理） 調査面積：83㎡
調査地：美幌町字豊幌705番地の1

調査の概要

豊幌7遺跡は美幌町市街地より南に約10km、豊幌川左岸の緩斜面に立地しています。遺跡の標高は120m程となっています。豊幌7遺跡の調査は、道営農地整備事業美幌豊栄地区の区画整理工事に伴い、遺跡の範囲を確認する目的で試掘調査を実施しました。

試掘調査の結果、遺構は確認されませんでした。試掘ピット83か所から30点の遺物が出土しました。遺物は広範囲のいずれも耕作土の中からはばらに出土しています。また、試掘調査の結果から過去の耕作や削平作業によって既に破壊された状況であることが明らかになりました。

遺跡の時期は、調査区から北筒式土器の破片が出土していることから縄文時代中期末葉から後期初頭と考えられます。



調査風景



出土遺物

この遺跡についてのお問い合わせや、美幌町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

美幌博物館まで

住所：美幌町字美禽253-4

電話：0152-72-2160



苫小牧市 静川37・48・49遺跡

(J-02-64・298・299)

- 発掘主体： 苫小牧市埋蔵文化財調査センター
調査理由： 詳細分布
調査地： 苫小牧市字静川164-13
調査期間： 令和元年6月11日から7月9日
調査面積： 63㎡（1.5×6mの試掘溝7本）

調査の概要

苫東開発区域内の静川地区の調査で、新たに静川48・49遺跡を発見しました。また、周知の埋蔵文化財包蔵地の静川37遺跡の周辺で遺物を発見しました。遺物は静川37遺跡で土器2点石器等1点、静川48遺跡で土器96点石器等54点、静川49遺跡で土器2点石器等4点が出土しています。いずれも縄文時代です。



静川37・48・49遺跡位置図

苫小牧市の遺跡をもっと知りたい方は、苫小牧市埋蔵文化財調査センターまで

住所：苫小牧市末広町3丁目9番7号 電話：0144-35-2552 閉館日：月曜日、年末年始



発掘主体：伊達市教育委員会
調査理由：開発事業（公共下水道）
調査地：伊達市東有珠町243番地2地先～4地先
調査期間：令和元年5月13日から7月11日まで
調査面積：337㎡

調査の概要

伊達市では、令和元年度に3件の発掘調査を実施しました。そのうち、1件が開発事業に伴う緊急行政発掘で、2件が学術研究目的の発掘調査です。

若生2遺跡は、縄文前期の巨大貝塚を有することで知られる集落遺跡群「若生貝塚」のC・D地点に該当する遺跡です。今回の調査では縄文中期後半の貝塚や、縄文前期の竪穴住居址が発見されました。



若生2遺跡の貝塚



竪穴住居跡

この遺跡についてのお問合せや、伊達市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

◆若生2遺跡について

伊達市教育委員会 生涯学習課文化財係まで
電話：0142-23-3331

◆伊達市内の遺跡について

だて歴史文化ミュージアムまで

住所：伊達市梅本町57-1

電話：0142-25-1056

開館時間：9:00~17:00

休館日：月曜日（月曜が休日の場合はその翌日、連休の場合は終了日の翌日）

だてし うすもしりいせき

伊達市 有珠モシリ遺跡 (J-04-061)

発掘主体：伊達市教育委員会 調査期間：令和元年9月14日から9月23日まで
 調査理由：学術研究 調査面積：10㎡
 調査地：伊達市有珠町102番地、101番地地先

調査の概要

有珠モシリ遺跡は、縄文時代の終わりから続縄文時代にかけての貝塚と墓からなる遺跡で、装飾豊かな銚やクマが彫刻されたスプーン等の骨角器や、沖縄近海でしか採取されない貝でできた腕輪などが発見されたことで注目を集める遺跡です。本遺跡では、1985年～1989年まで札幌医科大学によって発掘調査が実施されました。今回の調査は、それ以来30年ぶりの発掘調査となります。今回の調査では、遺跡の広がりを確認するための分布調査と、札幌大調査区の再発掘を行いました。再発掘調査区では、装飾豊かな鹿角製の銚が出土したほか、未調査の墓が発見されました。調査は2020年度にも実施予定で、成果が期待されます。

だてし かむいたふこぶしたいせき

伊達市 カムイタプコプ下遺跡 (J-04-089)

発掘主体：伊達市教育委員会 調査期間：令和元年10月7日から10月12日まで
 調査理由：学術研究 調査面積：10㎡
 調査地：伊達市有珠町99-1、99-5

調査の概要

カムイタプコプ下遺跡では、昨年度までに引き続き、17世紀を中心とするアイヌ民族の集落跡の調査を行いました。今回の調査では、1640年以前の貝塚と1640～1663年に営まれた畑跡が発見されました。17世紀の中頃のこの場所は、畑が広がる集落であったことが、改めて確認されました。



有珠モシリ遺跡発掘調査風景



有珠モシリ遺跡遺物出土状況

この遺跡についてのお問合せや、伊達市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

- ◆有珠モシリ遺跡・カムイタプコプ下遺跡について ◆伊達市内の遺跡について

伊達市教育委員会 生涯学習課文化財係まで
 電話：0142-23-3331

だて歴史文化ミュージアムまで
 住所：伊達市梅本町57-1
 電話：0142-25-1056 開館時間：9:00～17:00
 休館日：月曜日

(月曜が休日の場合はその翌日、連休の場合は終了日の翌日)

厚真町 幌内8遺跡 (J-13-136)

発掘主体： 厚真町教育委員会
調査理由： 開発事業（道営農地整備事業）
調査地： 勇払郡厚真町字幌内564
調査期間： 令和元年5月15日から5月31日まで
調査面積： 528㎡

厚真町は北海道胆振総合振興局管内の胆振東部に位置し、埋蔵文化財包蔵地として登録されている遺跡数は令和2年1月現在で144カ所になります。幌内8遺跡の発掘調査は平成30年度に完了予定でしたが、30年9月6日発生 of 北海道胆振東部地震により発掘調査現場までの道路が遮断されたため、1ヵ月間の休止期間が生じ令和元年度に残存部分の発掘調査を実施しました。

遺跡は厚真川河口から約27kmの中流域最奥部の幌内地区に所在し、厚真市街地からは北東へ約11kmに所在しています。遺跡は北側に厚真川、南東側に日高幌内川、南側にシュルク沢川、南西にオッココ沢川が流れ、これらの合流点に形成された沖積低地のほぼ中心部に位置しています。遺跡は沖積低地に形成された比高差約2.5mの残丘、独立丘上に立地しています。

発掘調査は昨年度の継続調査で今年度は縄文時代早期の遺物包含層（漸移層）と遺構確認、旧石器時代における遺物包含層の有無についての確認調査を実施しました。

今回の調査では縄文時代の遺構として、土坑墓1基、土坑7基、焼土1カ所が見つかっていません。土坑墓は直径が約1.2mの円形プランで、検出面からの深さ約1.0mありました。副葬品は出土していませんが、埋め戻しの人為堆積であったことから土坑墓と判断したものです。

旧石器時代の確認調査は今から約8,000～9,000年前に降り積もった樽前d火山灰より下層を対象とし、40㎡を調査しました。約20,000年前の恵庭a火山灰降下後に離水形成されたローム質土の堆積を確認しましたが、遺物は出土しませんでした。



調査終了状況



縄文時代の土坑墓堆積状況

この遺跡についてのお問い合わせや、厚真町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

厚真町教育委員会 生涯学習課社会教育グループ 軽舞遺跡調査整理事務所（旧軽舞小学校）まで
電話：0145-28-2733 メールアドレス：shakai@town.atsuma.lg.jp

様似町 冬島遺跡 (K-08-011)

発掘主体： 様似町教育委員会
調査理由： 詳細分布
調査地： 様似郡様似町字冬島39番地
調査期間： 令和元年5月13日から6月21日まで
調査面積： 38m²

調査の概要

冬島遺跡は、様似町市街地から東に6kmほど離れた冬島地区にあり、冬島川とポンサヌシベツ川に挟まれた海岸段丘上に立地しています。

発掘調査はこれまでも何度か実施されており、昭和56年の地元郷土史愛好団体の調査では竪穴式住居跡がみつかっています。

様似町教育委員会では冬島遺跡の範囲や性格の把握を目的に平成26年度から調査を開始しました。昨年度までの成果として土坑や焼土などの遺構と、骨角器やコハク玉などの遺物を確認しています。

今年度の調査は、昨年度の調査区をさらに南北に拡張して遺構・遺物の広がりを確認することとしました。その結果、Tピット1基、土坑5基、礫集中、土器集中が検出されました。また、昨年度検出された獣骨や魚骨を多く含む人工的な堆積（盛土層）は、調査範囲南部の斜面側に向かって厚く堆積していることがわかりました。

遺物では、「大狩部式」や「東歌別式」と呼ばれる約2,300年前の土器、黒曜石製の石鏃や砂岩製石のこなどの石器、緑泥石製の石製品などが出土しました。



調査区遠景



出土した石製品

この遺跡についてのお問い合わせは・・・

様似郷土館まで

住所：様似町会所町1番地

電話・FAX：0146-36-3335

中標津町 標津川9遺跡 (N-03-56)

発掘主体：中標津町教育委員会
調査理由：詳細分布
調査地：
調査期間：令和元年5月24日、25日、31日、6月8日、8月5～8日、13～15日
調査面積：40㎡

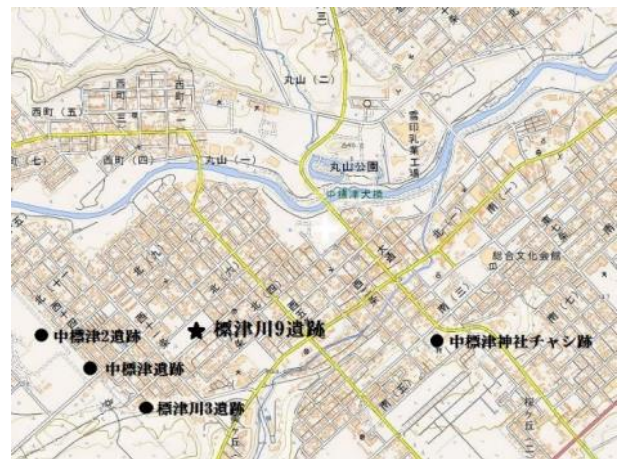
調査の概要

標津川9遺跡は中標津市街地北西部に所在し、標津川によって形成された標高35mの河岸段丘の右岸に立地しています。

本遺跡は、旧所有者から当町が埋蔵文化財の保存と活用を考慮して平成28年12月22日に購入したところであり、将来の土地利用に資するため平成29年度から複数年かけて遺跡の範囲及び正確の確認を目的として調査を行っており、来年度も実施予定です。

試掘調査の結果、44地点のテストピットの内、10地点から48点（続縄文時代前期、後半期などの土器片37点、黒曜石製石器類11点）の遺物と、11地点において、焼土などの遺構が確認された。

遺跡の時期は、昭和40年代に町民が縄文土器、後北式、擦文土器を表採しており、今回の調査においても、続縄文土器の前半期（興津式、下田ノ沢式）、後半期（後北式）の土器を発見していることから、縄文時代中期中葉から続縄文時代を経て、擦文時代後半期にかけて利用されていたと考えられます。



標津川9遺跡位置図



調査状況

この遺跡についてのお問合せや、中標津町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

中標津町教育委員会生涯学習課学芸係まで
電話番号：0153-73-3111

標津町 ぽー川河岸3遺跡 (N-04-184)

発掘主体： 標津町教育委員会

調査理由： 詳細分布

調査地： 標津郡標津町字伊茶仁1番地21・22

調査期間： 令和元年8月1日から8月27日まで

調査面積： 9m²**調査の概要**

ぽー川河岸3遺跡は標津市街地から北に4kmほど離れた、ぽー川左岸の自然堤防上に位置し、地表面から窪みで観察できる堅穴6か所が確認されています。ぽー川、伊茶仁川流域に窪みで残る大規模堅穴住居跡群、標津遺跡群の構成遺跡の1つです。標津遺跡群の内容解明と、将来の保存に向けた基礎情報を得るため、地元標津高校と共同による詳細分布調査を行いました。

令和元年度の調査では、前年度に調査した堅穴の隣に隣接する、方形の堅穴の窪み1か所に対し、幅50cmのトレンチをT字に設定し、発掘調査を行いました。調査の結果、窪みの中央付近で炉跡が検出され、床面からは続縄文時代初頭の土器片がみつかりました。

今後堅穴隣接区域でもトレンチ調査を実施し、遺跡の詳細を確認した上で、報告書を刊行する予定です。



調査状況



HP3遺物出土状況

この遺跡についてのお問合せは・・・

標津町ぽー川史跡自然公園まで

電話：0153-82-3674

E-mail：po-gawa@shibetsutown.jp



羅臼町 モイレウシ川南岸遺跡 (N-05-71)

発掘主体： 羅臼町教育委員会
調査理由： 詳細分布調査
調査地： 目梨郡羅臼町船泊269林班は小班
調査期間： 令和元年7月29日から9月30日まで
調査面積： 5m²

調査の概要

モイレウシ川南岸遺跡は相泊にある道道87号知床公園羅臼線の道路終点から、海岸線沿いにしれとこ半島の先端側へ8kmほど離れた、モイレウシ川南岸の河岸段丘上に位置しています。

これまで発掘調査が行われたことはありませんが、踏査調査により8~10軒の竪穴住居と考えられる窪みが地表面で確認されています。また、モイレウシ川の浸食による露頭ではオホーツク式土器や石器などが表採されています。

今回、遺跡の内容及びモイレウシ川の浸食による遺跡への影響を確認するために、詳細分布調査を実施しました。また、調査は羅臼町子ども会育成協議会・羅臼町教育委員会による「ふるさと少年探検隊」事業のプログラムの一つとして参加者の協力を得て実施しています。

調査は25m×20mの範囲の草刈り及び1m×5mのトレンチ調査を実施しています。

遺構は10軒の竪穴住居と考えられる窪みを地表面で確認しており、窪みの形状からオホーツク文化期のものだと思います。また、この範囲外にも窪みは分布しています。

1m×5mのトレンチ調査は諸般の事情により深さ30cm程の調査となりましたが、出土遺物は土器・石器等317点が出土しています。

土器は続縄文時代の前半、オホーツク文化刻文期、トビニタイ文化期のものが、石器は石鏃やピエスエスキューの他にオホーツク文化期に特徴的な大型の石錘が出土しています。

今後も同規模の詳細分布調査を継続する予定であり、内容が明らかになった時点で発掘調査報告書を刊行予定です。



モイレウシ川南岸遺跡出土土器

この遺跡についてのお問合せや、羅臼町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

羅臼町郷土資料館まで

電話：0153-88-3850

住所：目梨郡羅臼町峯浜町307-3

開館時間：9:00~17:00

閉館日：土・日・祝日・年末年始（ただし、7月1日~9月中旬は閉館日なし）

令和2年(2020年)3月 発行

市町村における発掘調査の概要 令和元年度(2019年度)

編集・発行

北海道教育庁 生涯学習推進局 文化財・博物館課
〒060-8544 北海道札幌市中央区北3条西7丁目
TEL 011-231-4111 内線35-606